



これだけしか 子どもには みえてない！

子どもの目線で教えることの必要性

大人は気がついて、子どもは気がつかない。それは、子どもの視野の狭さと、子どもの目の高さが、大人に比べて低いことが見える範囲を狭くしています。

子どもの安全確認が大人よりも大変なことがよくわかります。

道路を渡る前には、まず「止まり」、体の向きをかえて右左をよく「見る」ことを、その場で繰り返し教えましょう。

予想もつかない子どもの行動

子どもは大人が思いもよらない行動をとることがあります。ひとつのことに注意を集中するとほかのことが目に入らない。いろいろなことに注意を向けることが出来にくい。という子どもの特性からです。

このチャイルドビジョンは、子どもの視野を知るために横浜市が考案したものです。道路で使用する際は安全に十分注意してください。